

平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果について

宮城県教育委員会

1 実施状況

(1) 調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における震災の影響と学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより、児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また、各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

(2) 調査実施期日

平成30年6月25日（月）から平成30年6月29日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

(3) 調査対象者（仙台市を除く）

対 象 ^(*1)	調査事項	実施校	参加児童生徒数
小学校5年生の全児童	生活習慣 学習習慣	255校	10,676人
中学校1年生の全生徒 ^(*2)		141校	10,119人
学校	児童生徒への関わり方 指導方法	上記の全小・中学校	

*1 義務教育学校，特別支援学校を含む

*2 中学校においては，平成26年度から平成28年度までは中学校2年生を対象に実施

2 調査結果の概況

(1) 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

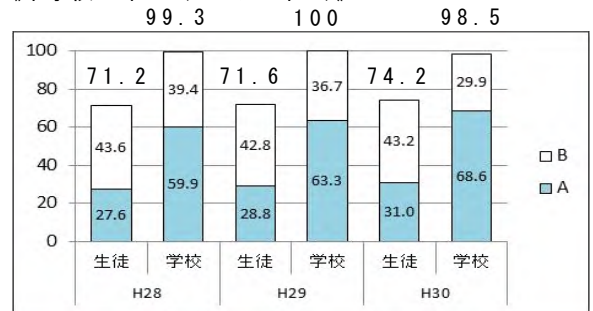
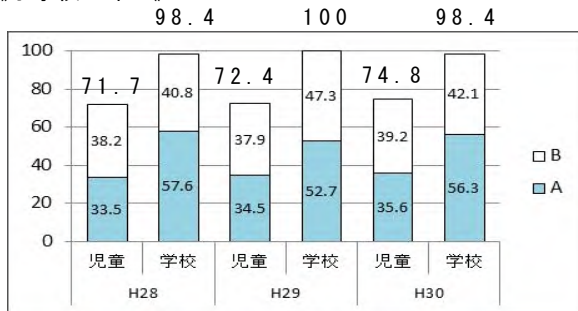
提言1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに，子供の声に耳を傾けること。

質問事項1（児童生徒） 「先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか」

質問事項1（学校） 「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け，励ましましたか」

《小学校5年生》

《中学校1年生（H28は2年生）》



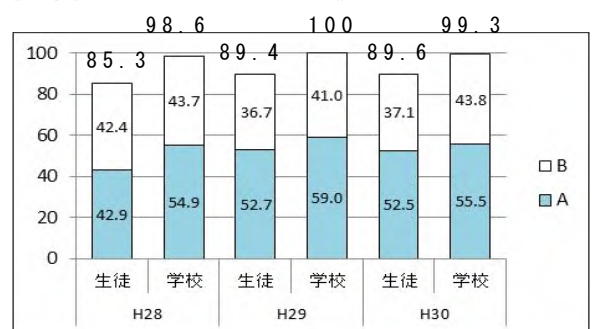
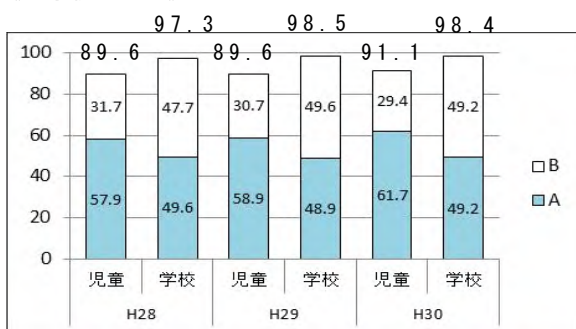
※A：当てはまる B：どちらかといえば当てはまる

質問事項2（児童生徒） 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」

質問事項2（学校） 「児童生徒一人一人の声に耳を傾け，話をよく聴きましたか」

《小学校5年生》

《中学校1年生（H28は2年生）》

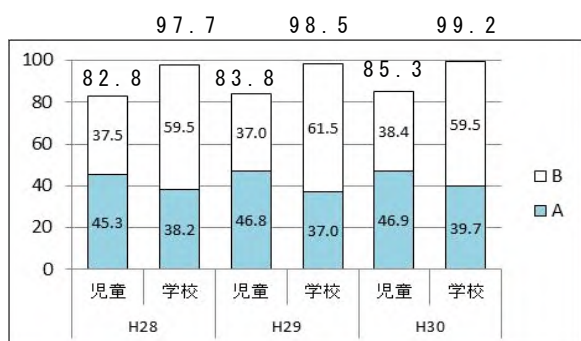


提言2 子供をほめること、認めること。

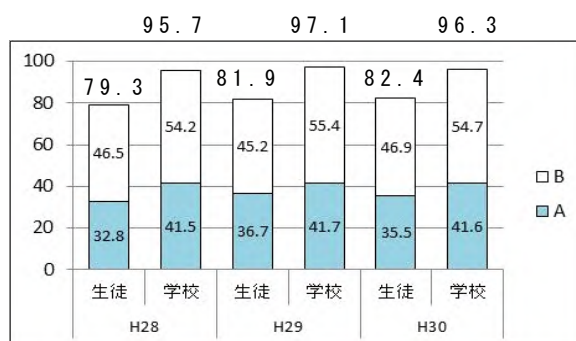
質問事項3（児童生徒） 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていますか」

質問事項3（学校） 「学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか」

《小学校5年生》



《中学校1年生（H28は2年生）》

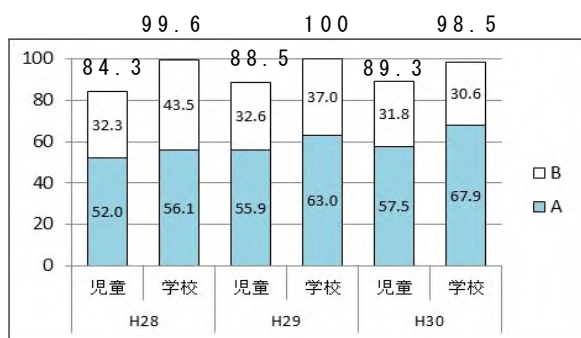


提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

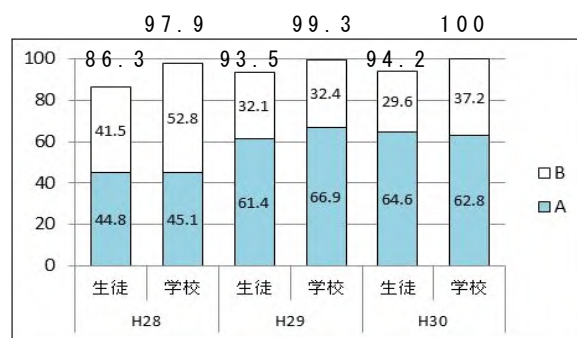
質問事項4（児童生徒） 「授業の中で先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか」

質問事項4（学校） 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」

《小学校5年生》



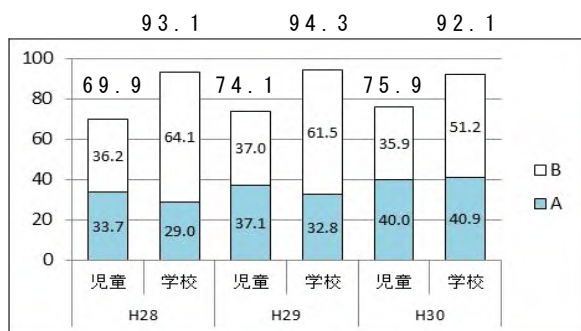
《中学校1年生（H28は2年生）》



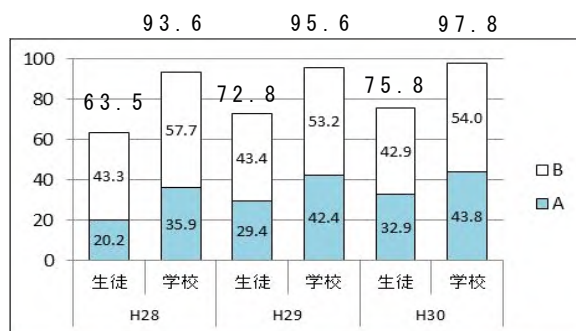
質問事項5（児童生徒） 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」

質問事項5（学校） 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」

《小学校5年生》

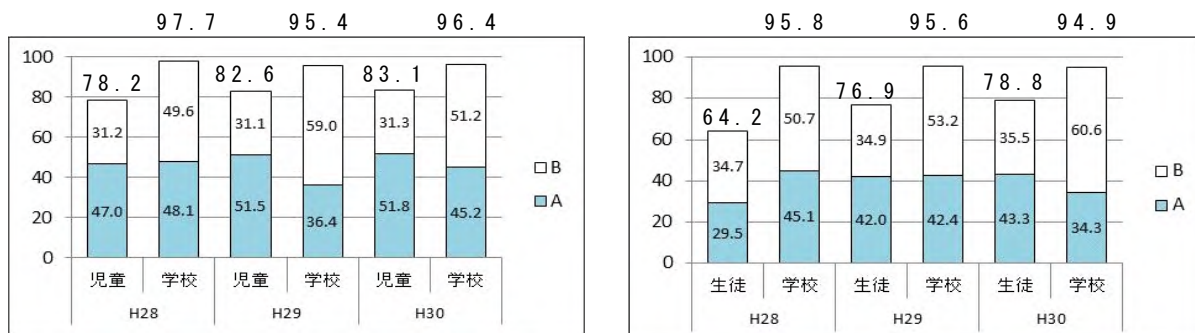


《中学校1年生（H28は2年生）》



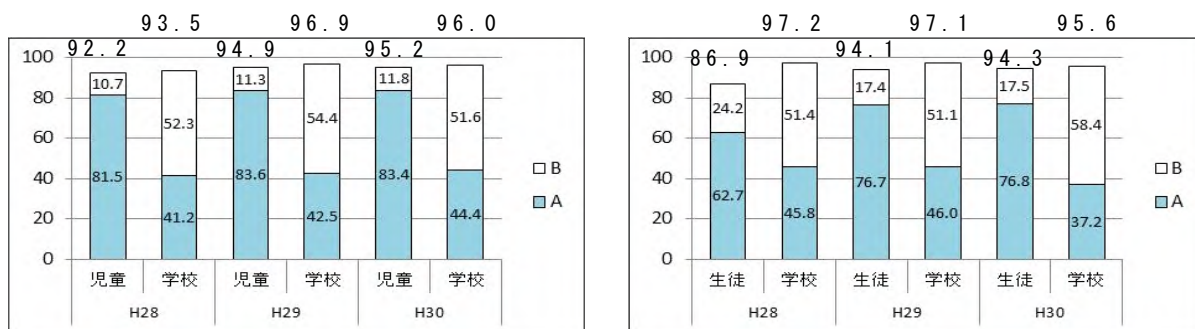
提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

質問事項6 (児童生徒) 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」
 質問事項6 (学校) 「ノートの取り方(ワークシートやプリント類を除く)を指導しましたか」
 《小学校5年生》 《中学校1年生 (H28は2年生)》



提言5 家庭学習の時間を確保すること。

質問事項7 (児童生徒) 「家で、学校の宿題をしていますか」
 質問事項7 (学校) 「家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか」
 《小学校5年生》 《中学校1年生 (H28は2年生)》



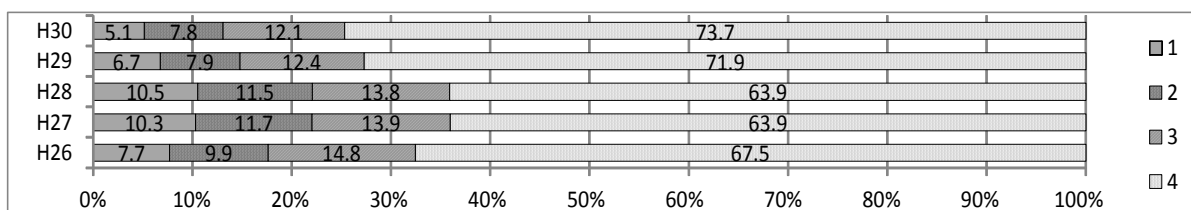
○ 経年変化を見ると、児童生徒の回答、学校の回答ともに、肯定的な回答が緩やかに増加している。
 ○ しかし、5つの提言1から5に関する質問に対し、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は学校回答ほど高くなく、児童生徒と教員との意識にかい離が見られる。
 ○ 特に、「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」と、「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」の質問に対するかい離が大きくなっている。
 (別冊 平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 P1 ~ P3, P18, P21)

(2) 震災の影響と関連する事項

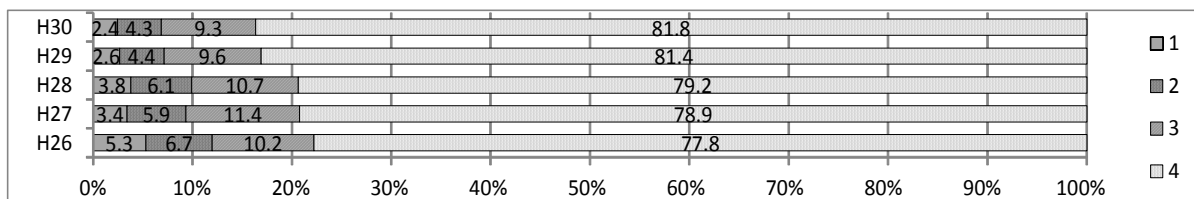
質問事項13 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

《選択肢》 1: 当てはまる 2: どちらかといえば当てはまる
 3: どちらかといえば当てはまらない 4: 当てはまらない

《小学校5年生》



《中学校 1 年生（H26～28は 2 年生）》



○ 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している小5は 12.9%，中1は 6.7%で、割合が減少してきているものの、未だに震災の影響が見られる。

(別冊 平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 P6, P7)

(3) 基本的な生活習慣と関連する事項

質問事項 25 「携帯電話やスマートフォンを持っていますか」

どちらか一方、もしくは両方持っているとした割合

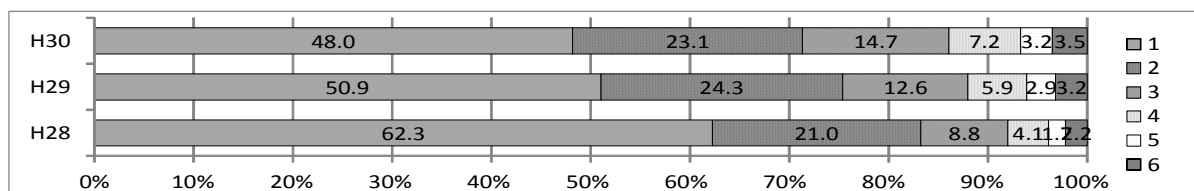
年度	小学校 5 年生		中学校 1 年生	
	回答	経年比較	回答	経年比較
H30	44.1	0.8	59.5	2.8
H29	43.3	5.0	56.7	-1.3
H28	38.3	-9.5	58.0	-8.5
H27	47.8	-6.0	66.5	-3.9
H26	53.8		70.4	

(H26～28は中2)

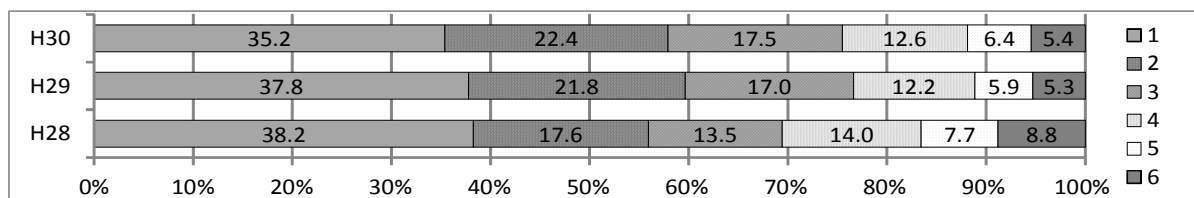
質問事項 24 「平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」

《選択肢》 1：全く使わない 2：30分未満 3：30分以上1時間未満
4：1時間以上2時間未満 5：2時間以上3時間未満 6：3時間以上

《小学校 5 年生》



《中学校 1 年生（H28は 2 年生）》



○ 「携帯電話やスマートフォンを所持している」と回答している小5の割合は 44.1%で、中1の割合は 59.5%となっている。

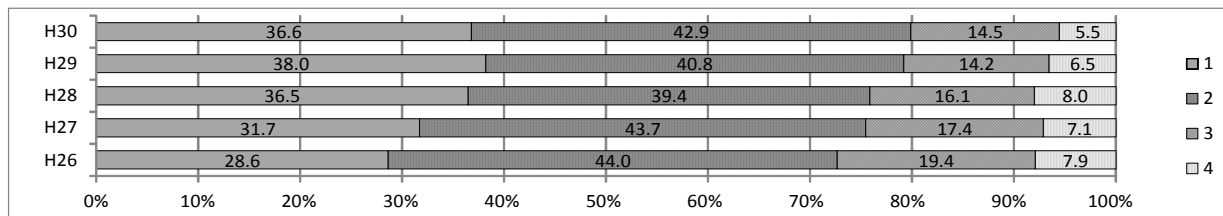
○ 「平日に携帯電話やスマートフォンで無料通信アプリを1時間以上使う」と回答した割合は、小5では 13.9%，中1では 24.4%となっており、増加している。

(別冊 平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 P10 ~ P13)

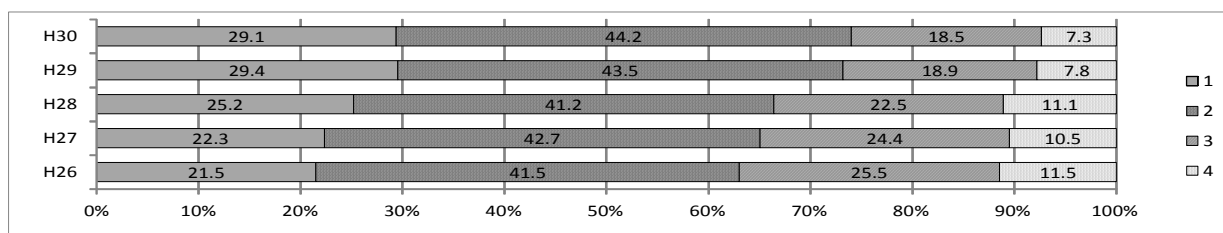
(4) 自尊意識・規範意識と関連する事項

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる
3：どちらかといえば当てはまらない 4：当てはまらない

質問事項26 「自分にはよいところがあると思いますか」
《小学校5年生》

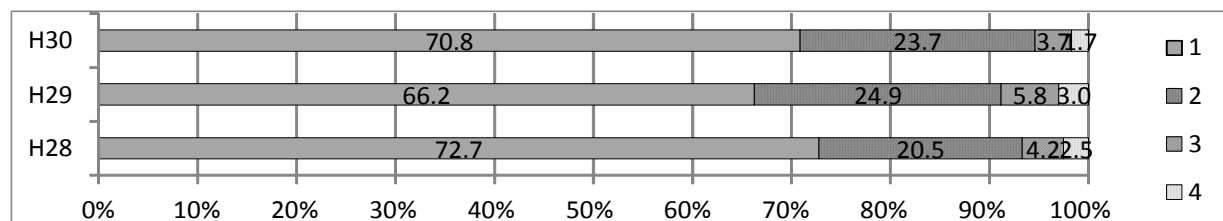


《中学校1年生 (H26～28は2年生)》



○ 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答している小5は80%、中1は73%で、毎年増えてきている。
(別冊 平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 P14, 15)

質問事項29 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」



○ 現中学1年生の3年間の経年比較(小5, 小6, 中1)では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問への肯定的な回答は、3年連続で90%を超えている。
(別冊 平成30年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 P28)

3 課題

(1) 自尊意識・規範意識をさらに高めること

「自尊意識・規範意識と関連する事項」全体を見ると、肯定的な回答が緩やかに増加しているものの、例えば「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に、「そう思う」と答えている児童生徒は、小5で40%、中1で30%に達しておらず、全国平均には届いていない。また、不登校児童生徒の出現率が高いこと、児童生徒の意識が学力向上につながっているとは言いがたいことなどから、さらなる取組が必要である。

(2) 児童生徒質問紙調査結果と学校質問紙調査結果の乖離

経年で見えていくと、「学力向上に向けた5つの提言」に関わる質問項目の乖離は少しずつ縮まっている。しかし、提言1に関わる「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」、提言3に関わる「授業の終わりにその時間の授業内容を振り返る活動は行われていると

思いますか」という質問では、児童生徒と学校の間には20ポイント程度のかい離がある。

比較が、児童生徒の認識と教員の働きかけに関わることであり、質の違いはあるが、かい離があるという事実を受け止めて指導に当たるとともに、児童生徒一人一人に応じた励ましや認める声掛けが求められる。

(3) 震災の影響

震災の影響を感じている回答については、全体的に見ると、緩やかに減少している。しかし、依然として震災の影響を感じている児童生徒は、小5で10%を超えており、中1では6.7%となっている。

今までと同様に、児童生徒の様子を細やかに観察し、指導していく必要がある。

4 今後の対応

(1) 志教育の推進

児童生徒が、将来社会人、職業人として自立する上で必要な能力や態度を育てるとともに、主体的に学ぶ意欲を高めるため、今後も継続的に志教育を推進していく。「志教育支援事業」では、次年度も推進地区を指定し、その成果を発信する。また、「志教育フォーラム」では、著名人による講演や「みやぎの先人集『未来への架け橋』」の活用事例なども発表し、生き方や将来への夢について考える機会とする。

(2) 「学力向上のための5つの提言」学力向上対策

学力向上については、「分かる授業」を継続的に実践するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を推進することで、児童生徒の「分かった」という実感につなげていく必要がある。その基盤として、「子供の声を聴き、ほめ、認める授業づくり」、「子供が互いに認め合う学級づくり」は大変重要である。また、児童生徒の回答と学校の回答のかい離が大きい提言1、提言3については、特に改善を図る必要がある。

これらの具現化に向け、市町村教育委員会と連携し、児童生徒の学習内容の理解促進を目標に据えた授業づくりのためのPDCAサイクルの確立を支援するとともに、指導主事の学校訪問において、「学力向上のための5つの提言－理解 継続 自校化－」などのリーフレットの活用を促すことにより、学習習慣の確立（授業のユニバーサルデザイン化）を徹底する必要がある。また、成果を挙げている市町村教育委員会や学校の好事例や学力向上研究指定校の研究成果を広く紹介し、各学校の着実な実践を支援していく。

(3) 心のケア対策

今後も各学校において、教員が児童生徒の状況をきめ細かく把握し、一人一人に寄り添いながら、心のケアと教育活動に集中できるような環境整備に努める。また、各学校が心のケアや学力向上に向けた取組を一層充実させることができるよう、「魅力ある学校づくり」や「みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業」を拡充するほか、「学び支援コーディネーター等配置事業」を推進するなど、市町村教育委員会との連携をさらに強化していく。